



(禁転載)

WAVE

大阪成蹊学園報

第24号

2013年12月2日発行

発行 学校法人 大阪成蹊学園
法人事務本部 広報部

〒533-0007 大阪市東淀川区相川3丁目10番62号

TEL. 06-6829-2535

http://www.osaka-seikei.ac.jp/

2013(平成25)年10月31日、文部科学大臣から大阪成蹊大学教育学部(平成26年4月開設)の設置が認可されました。これにより大阪成蹊大学はマネジメント学部、芸術学部、教育学部の3学部を擁する大学となります。

大阪成蹊学園は、1953(昭和28)年に短期大学に保育科を設置して以来、60年に及ぶ児童・幼児教育の歴史を持ち、その間に多数の教員を世に輩出してまいりました。北大阪の主な都市には388人もの小学校教員が教鞭を執っており、幼稚園においても、地元幼稚園の73%に卒業生が教員として在籍するなど、現在も多くの卒業生が教員として活躍しています。

現在学園では、高等学校に幼児教育コース、短期大学に児童教育学科を設置して、小学校・幼稚園教員、保育士の養成にかかわる教育を展開しています。在籍者数は、高校生420人、短期大学589人の合計1,009人となっています。さらに、今回新設する大阪成蹊大学の教育学部の学生数を合算すると、その数は1,300人を超え、大阪成蹊学園は、大阪における児童・幼児教育の大きな拠点となります。

2014(平成26)年4月に開設する教育学部は、これらの期待と責任に応えるべく長年培ってきたノウハウをもとに、より質の高い教育を行い、子どもたちから信頼され、教育現場のさまざまな課題を解決できる能力を備えた教員の養成に努めてまいります。

教育学部では、次の特色(一部を紹介)を掲げ教育を展開します。

I. 教育内容の概要

1. REAL*EDUCATION (本物の教育)

本学部で何より大切にしたいのは、真の「人間力」を備えた教員・保育士の養成です。教育現場のあらゆる問題に正しく対応できる問題解決力と、子どもの心が理解できる豊かな感性を持つ「信頼でき

る教員・保育士」の養成、そうした「本物の教育」を行うことが本学部の目標です。

2. 万全の教員採用試験対策

1年生から教員採用試験対策の科目を系統立てて設定し、3年生からは、各都道府県別の採用試験対策を実施します。また、面接対策として、数多くの学外実習を経験して、現役合格100%をめざします。

3. 一人ひとりの成長をサポートするチューター制(担任)

1年生から4年生まで、教員がチューターとして学生の日常生活から個別の学修・就職まで幅広く全面的な支援を行います。

4. 豊富な学外実習と「こども教育支援センター」

見学実習、教育インターンシップ、教育実習、ボランティア活動など、1年生から4年生まで数多くの学外実習を体験します。早い時期から、数多く教育の現場に出ることによって、子どもの理解を深め、教員としての自覚を促し、資質を養います。また、多岐にわたる学外実習を支援する「こども教育支援センター」を設け学生の実習手配から就職まできめ細かにサポートします。

5. 教育委員会との連携

大阪市、吹田市、茨木市等近隣市町の13の教育委員会と連携協定を結び、その協定をベースに教育現場のニーズに基づいた実践的な学びを展開します。

6. 充実したキャリア教育と就職支援

1年生からキャリア教育を充実させます。1、2年生では基礎教養と教職基礎を学び、3年生から演習授業で応用力を養います。また、1年生から見学実習等、毎年学外実習を経験して、理論と実践

大阪成蹊大学 教育学部1期生の 募集開始!

力を身につけます。就職にあたっては、短期大学幼児教育学科の就職率2年連続100%達成を強力に支援した就職部と新設する「こども教育支援センター」が協働で学生の就職をきめ細かくサポートします。

7. コース制により専門教育を展開

主に小学校教員をめざし、小学校教諭1種免許状及び幼稚園教諭1種免許状の取得をめざす「初等教育コース」と、幼稚園教諭、保育士をめざし幼稚園教諭1種免許状と保育士資格取得をめざす「幼児教育コース」の2つのコースを設置します。コースには、2年生から所属し専門教育を学修します。(なお、上記の3つの免許・資格を取得することも可能です)

II. 充実した教授陣

これらの特色を実践し、学生を育成・支援する教員は、小学校や幼稚園の現場を熟知した経験者、長年国立の教育大学で教授経験のある先生、若くエネルギーな先生等年齢構成も30歳代4人、40歳代5人、50歳代6人、60歳代4人と各年代の教員19人(男性12人、女性7人)を適切に配置しています。

III. めざす教員像

教育学部の特色及び精鋭の教授陣により本学では、次のような教員の育成をめざします。

- (1) 人間的なふれあいを通して心のきずなを深め、子どもの思いを受け止めることのできる教員
- (2) 幅広い学問教養と新しい時代の教育知識を身につけた教員
- (3) 多角的視点から現代の教育課題に対応できる豊かな感性、確かなセンスを持った教員
- (4) 教育実践を振り返り、常に研究し、自己変革していける教員

以上の通り、教育学部では、短期大学の豊富な実績をベースに4年制大学としての質を保証し、将来の日本の教育を担う有為な人材の育成をめざします。

また、大阪成蹊大学は、マネジメント学部、芸術学部に加えて3学部目の教育学部の開設により、教育、研究の幅が大きく広がり、受け入れる学生も多様化し、既存学部の学生へも大きな刺激がもたらされ、教育のみならず学生生活全般にわたり相乗効果が期待できます。

2014(平成26)年4月、大阪成蹊大学は大きく変わります。

教育学部の概要

学部・学科名称	コース	入学定員	3年次編入	教員数	取得免許状・資格等
教育学部教育学科	初等教育コース 幼児教育コース	100人	10人	19人	・小学校教諭1種免許 ・幼稚園教諭1種免許 ・保育士資格

駅の広告も
リニューアル

阪急および京阪沿線の各駅の広告も、教育学部認可に併せてデザインを変更しました。(写真は梅田駅のものです)

教育学部 2014年4月開設

入学願書受付中

大阪成蹊大学

大阪成蹊大学(マネジメント学部・芸術学部)・大阪成蹊短期大学・大阪成蹊女子高等学校・こみち幼稚園
阪急梅田駅より徒歩3分・JR北摂駅より徒歩15分

大阪成蹊

80周年
記念

大阪成蹊学園は創立80周年を迎え、学内では記念のシンポジウムやコンサートが開かれました。また、80周年に寄せて3人の先生方からお言葉をいただきました。

教育シンポジウム開催

11月24日、大阪成蹊学園創立80周年と大阪成蹊大学教育学部開設を記念して、教育シンポジウム「子どもの学びを支える教師を育てる」を開催し、300人以上の方にご参加いただきました。

地域に貢献する学園に

建学の精神「忠恕」を実践できる人の育成をめざす学園として発展してきた大阪成蹊学園が創立80周年を迎えました。

生涯を通じて学ぶ意欲、いろいろな人と協力する態度を育てる人間教育を基盤として、専門的な知識、技能を学び、人に役立つことに喜びを感じるキャリア人材育成など時代をリードし、地域に貢献できる学園としてますますの発展を期待しています。

大阪成蹊大学 マネジメント学部 学部長 國方 太司



記念コンサート大盛況

大阪成蹊学園は創立80周年を記念し、11月30日、本学の音楽ホールにて『ザイラー夫妻ピアノデュオ連弾コンサート』を開催いたしました。当日は各方面より多くの方に足を運びいただき、コンサートは大盛況

のうちに終わりました。

ザイラーご夫妻は現在、京都市内と南丹市日吉町胡麻にお住まいで、ベートーヴェンが田園や森を散歩して楽想を練ったように、豊かな自然の中でさまざまなインスピレーションを受けて真の音楽を追求されています。



貫いてきた成蹊人の決意

大阪成蹊学園は創立80周年を迎えました。伝統を誇りとし、建学の精神と成蹊人としての決意でここまで来ました。今、「保育・教育」は大きなうねりの中にありますが、幼稚園では、遊びを学びとして過ごす園児の姿に本気を感じます。短大では、幼児教育学専攻の学生240人全員が実習指導講義を静かに聞く姿に本気を感じます。学生指導に惜しみなく時間をかける教職員の姿に熱意を感じます。学園愛を持ち、本気で仕事をする教職員がいる限り、園児・学生たちは今後も輝き続けることでしょう。大阪成蹊学園は、永遠に不滅です。

大阪成蹊短期大学 児童教育学科 学科長 藪田 一子
こみち幼稚園 園長

卒業生の活躍に期待

全国でも有数の学科を誇る短大、2大学3学部に加え来年度より教育学部が開設され、学生たちの多様なニーズに応える教育の場がますます広がります。高校からは併設大学短大への進学に期待が高まっています。創立80周年を迎え、在校生がより一層活躍し、学園を発展させる力になることを祈念しております。

大阪成蹊女子高等学校
進路指導部長 高橋 千尋

Topics

大阪府中央卸売市場との連携事業

大阪成蹊学園は、2013年1月に大阪府中央卸売市場と連携協定を締結し多くの連携事業を実施しています。

名神高速・吹田サービスエリアメニュー開発 (大阪成蹊短期大学 総合生活学科 食物コース 調理クラス)

吹田SA内のレストランで販売する女性向けヘルシーメニューを学生たちが考案しました。「洋風つけめん」や「ランチプレート」など、学生ならではの視点で考えたメニューを、京阪レストランの方々に学生たちがプレゼンテーション。採用されたメニューは実際に提供される予定です。



いちじくPR

(大阪成蹊短期大学 総合生活学科 食物コース フードコーディネートクラス)

淡路島産いちじくのPR活動の一環として、フードコーディネートクラスの学生25名がいちじく栽培の様子を見学し淡路島を訪問しました。その後、学生たちがいちじくのレシピを考案し、試食会を実施。販売現場などでのレシピ提供や、HPへの掲載が予定されています。



梨「南水」をテーマにした食ビジネス講座 (大阪成蹊短期大学 マネジメント学部 食ビジネスコース)

JANAみなみ信州から講師を招き、特産である梨「南水」を切り口にした農業の状況や収穫・選別・出荷などの流通システムについてのお話を伺いました。今後、学生たちは課題を整理し、産地への提案を行う予定となっています。



★社員食堂メニュー提案 (大阪成蹊短期大学 総合生活学科 栄養コース)

大阪府中央卸売市場内の水産卸会社が運営する社員食堂に、栄養コースの学生たちがメニューを提案しました。関係者への試食会を経て「揚げ秋刀魚のポン酢仕立て」「ほうれん草のヨーグルト和え」など9種類のメニューが9月26日に社員食堂で提供され、当日は学生たちが健康に関するアンケートも実施しました。



食のすべてを学ぶ 「フードトラベラー」開催

大阪成蹊大学(マネジメント学部食ビジネスコース)と大阪成蹊短期大学(総合生活学科栄養コース・食物コース/調理クラス、フードコーディネートクラス)は8月21日(水)に、大阪府中央卸売市場との共催で、食のはじまり(生産)から終わり(消費)までを学べるイベント「フードトラベラー」を開催しました。

まずは、「食のはじまり(生産)」として、学内に岐阜県特産の「ほうれんそう」「トマト」、高知県特産の「にら」菜園を再現し、生産者から解説を受けた後、収穫体験を行いました。野菜の収穫が初めてという高校生も多く、楽しみながら収穫していました。次に作られた食材がどのように流通していくかを知るために、大阪府中央卸売市場と卸会社の方から、市場の役割の解説と食材の卸値を当て「模擬せり」を行いました。みごと卸値を当てた高校生にはバナナがプレゼントされ、大いに盛り上がりました。



教育研究支援センターでは、多くの連携事業を実施しており、今後も大阪府中央卸売市場との連携を深め、学生たちの成長機会の場として、「食の大阪成蹊」を推進すべく、さまざまな事業を展開していきます。

大阪成蹊大学 マネジメント学部

朝鮮王朝の景福宮前にて記念撮影



韓国で研修
経営コースの11人

サムスン本社の広報館前にて



韓世大学・金博士の講演を拝聴

マネジメント学部・経営コースは「グローバルビジネス」を体験的に学ぶことを目的に海外研修旅行を行いました。参加学生の11人は、提携している韓国・韓世大学の学生12人と一緒に、グローバル企業のサムスン社や日本外食チェーン店の視察、韓世大学での講演・交流会に参加し、また韓国の伝統文化にも触れることを通じて、大いに刺激を受け、視野を広げることができました。

ソウルでは、本学学生と韓世大学の学生が日韓のペアを作り、一緒に行動しました。最初はサムスン本社の広報館へ。ペアで様々な最新機器を体験。お昼となり、これまたペアで日本の外食チェーン店でランチをとりながら日本との違いも体感しました。

その後、皆で韓世大学へ。大きな横断幕の歓迎に一同感激！ 大学施設を見学したあと、金正一博士の講演「サムスン・

ウェイ」を拝聴。終了後には、金博士自ら本学学生一人ひとりにたくさんの記念品を手渡していただきました。

参加した学生からは「今までの人生で一番インパクトを受けた。貴重な体験ができて本当によかった」などの感激の声が聞かれ、中には帰国直後から、猛然と勉強し始めるメンバーも出るなど、有意義な研修旅行となりました。



全員元気に帰国(関空にて)

大阪成蹊短期大学

グローバルコミュニケーション学科へ 創造文化学科から学科名称を変更

2014(平成26)年度、創造文化学科は、グローバルコミュニケーション学科へと名称変更し、グローバルな広がりを持つ場で活躍できる、コミュニケーション能力や表現力を身につけた社会人の育成を行います。

この背景には、「外務省は海外で日本語を学ぶ人を増やすため、日本語専門家の海外派遣を拡充する方針だ。若い世代を念頭に交流サイト(SNS)を活用し、日本語講座にも取り組む。日本企業が進出する各国で日本語を使える人を増やすことは生産性向上につながる。アニメなど日本のソフト文化の普及拡大にもなるとみている」(日経新聞 2013/7/29)との報道にも象徴的なように、現代日本の内外から、日本語や日本文化

「声優トライクラス」に、
野田順子さんを客員教授として招聘



へ向けられる、新たな関心の動向があります。

教育目標の実現のために、具体的には、「日本語・日本文化」「英会話」「ダンス」「声優トライ」「アニメ・マンガ」の、五つの専門クラスを開設し、カリキュラムを再編することで対応します。

その際、教授陣には、アニメ『MÄJÖR』のキャスト声優・野田順子さんをはじめ、漫画家・鈴木ネコさんら、現役で活躍中のプロのみなさんを、クラス担当として迎えることとしました。

プロとの切磋琢磨は、スキルアップにとどまらず、人間力の向上にも成果がみられるはずです。

創造文化学科 学科長 鎌田廣己



⑥グランプリ：北海道稚内高等学校 鈴木 茉莉奈さん
⑤準グランプリ：岐阜県立大垣桜高等学校 東海 あかりさん
⑥生活デザイン賞：大阪府立登美丘高等学校 榎原 明日香さん



総合生活学科 生活デザインコース

高校生ファッションデザイン画コンテスト開催

第3回目となる高校生ファッションデザイン画コンテストが今年度も開催されました。今年度は、ファッション甲子園として知られる“全国高等学校ファッションデザイン選手権大会”に出場経験のある全国の強豪校からも多数の応募をいただき、大変レベルの高い内容となりました。

上位3賞としてグランプリ、準グランプリ、生活デザイン賞に各1人ずつ、そして優秀賞として3人、その他佳作として19人が入賞しました。

入賞作品は、平成26年2月11日開催予定の、生活デザインコース卒業制作ファッションショーにて紹介されます。

Topics

大阪成蹊女子高等学校



成蹊のPRIDE 3000人魅せた

文化祭

9月14、15日の土・日曜日に文化祭を行いました。今年の2日目は台風の接近により雨模様でしたが、昨年以上にたくさんの来場者の方に来ていただき、盛り上がりを見せました。

今年のテーマは『SEIKEI PRIDE〜はじけろ!感じろ!成蹊ビート☆☆〜』ということで、「一人ひとりが成蹊生であるという“PRIDE”を持って行動しよう」という企画委員の思いが込められたテーマで、多種多様なクラス企画が催されました。

来場された方々に今まで以上に楽しんでもらおうという趣旨の下、各部門において生徒たちの創意工夫と担任のきめ細かな指導もあって、見事なクラス企画となりました。

一例として、パフォーマンス部門ではダンスパフォーマンスに書道を取り入れたスポーツコースの企画や、リズムカルアートという今までのパフォーマンスとは一味違った企画が飛び出し大いに盛り上がりを見せました。

舞台部門では、演劇とダンスのクラス企画があり、吉本風(?)新喜劇に挑戦するクラスや本格的ミュージカルである『ライオン・キング』に勝るとも劣らない演技を見せてくれ



たクラスもありました。

また校舎内の企画であるアトラクション部門、展示部門でも創意工夫された内容と装飾でした。お化け屋敷での企画では、恐怖感をとことん追求したクラスもあったようです。

ここ数年、大阪成蹊女子高校の文化祭は大いに盛り上がりを見せているのですが、その裏には夏休み前に企画を考えるとところから始まり、担任の先生や文化委員を中心にクラスの一致団結なくしては考えられない成蹊独自の「行事は全力で」という全教員、全生徒の思いがあると思います。その思いを今年も結実させたことは、毎年のことではありますが素晴らしいことだと感じています。

この2日間で来場者数は3,000人近くになり、昨年度と比較すると大幅に増加しましたが、混雑した中でも大きな事故もなく文化祭を終了することができたことは、保護者のご協力と、各教職員の努力の賜物であると思っています。今後も、成蹊の行事はいつでも教職員、生徒ともに全力で行ってまいります。

なお、今年のそれぞれの部門の優秀クラスは次の通りです。

アトラクション部門			パフォーマンス部門		
金賞	3年1組		金賞	2年8組	
銀賞	3年2組		銀賞	2年7組	
銅賞	2年10組		銅賞	3年11組	
展示部門			審査員特別賞		
金賞	1年2組			1年4組	
銀賞	2年5組		舞台部門		
銅賞	2年11組		金賞	3年3組	
			銀賞	3年6組	
				1年1組	



いる姿に感動。人と人とのつながりもお料理のスパイスになっているのだと感じました。

特別企画「ケーキバイキング」では、総合生活学科食物コースフードコーディネータークラスの先生に協力していただきました。女子校である本校のイメージにフィットする素敵なテーブルコーディネートの中で、中学生は美味しいケーキをよりいっそう美味しく食べることができました。多数のケーキを多数の来場者にどう提供するかが大きな課題でしたが、大学食堂の職員の皆さんの工夫とがんばりで約600人の来場者への提供も実にスムーズに進行し、初企画を大成功に終えることができました。心から感謝いたします。

そして、多くの企画が同時進行する中で大活躍してくれたのが、本校の生徒スタッフです。毎回行っている分担に加えて、今回はケーキバイキング会場のセッティング・掃除・運営・片付け。膨大な仕事をパワフルにこなしながら、来場者には笑顔であいさつ。中学生は、この本校の生徒スタッフの姿に、自分の成蹊女子高校での高校生活を重ね合わせることができたのではないのでしょうか。それほど本校生の「おもてなし」は素晴らしかったと思います。

高校だけではできない企画を実施できる喜びを、今後さらに大きな感動に発展させ、高校生の教育活動と募集活動に結び付けていければと思います。協力してくださった皆様、誠にありがとうございました。

募集広報企画室長 宇都宮加代



高校オープンスクール

在校生が「おもてなし」

10月26日(土)、第3回オープンスクールを実施しました。高校のオープンスクールでは毎回、入試説明会・コース説明会・クラブ見学・個別相談・施設見学に加えて、趣向を凝らしたオプション企画を実施しています。第3回オープンスクールのオプション企画では、「第3コンピューター教室でアプレコ体験」「集中カトレーニング」「デッサンミニ体験」「iPadミニ体験」「就学支援金説明会」という高校の教職員だけで行う企画に加えて、大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学とのコラボレーション企画をたくさん実施することができました。

児童教育学科の先生による講演「今、保育現場はどうなっているの?」では、実際に短大生の就職にかかわっておられる先生だからこその現場のリアルな話をお聞きました。聞いている中学3年生はまだ14歳ですが、「子どもが好き」という純粋な気持ちと自分の将来をどのように結びつけばよいのかを一生懸命模索していると思います。本校幼児教育コースの教員の話に加えて短大の先生のお話を聞くことで、将来のイメージがより鮮明になったことと思います。

総合生活学科食物コース調理クラスの先生による「短大でミニクッキング&試食」では、短大の実習室でパスタ調理の実演を手際よく



見せていただき、調理をする心掛けや調理の素晴らしさをお聞きました。補助の短大生は、本校の卒業生。聞いている中学生に4年前の自分の姿を重ね合わせながらテキパキと手伝ってくれていました。企画担当の本校教員も、その卒業生が成長して

こみち幼稚園

9月、在園児に向けて話をする機会がありました。その場で、「お友だちが『いじわるするからきらい』と言うのではなく、『あのこのこがやさしいとおもう』『いつもいじわるされるけれど、こんなにいいところがあった』と『き



マラソン大会の様子

らい!』ではなくて、『その子のいいところ』を見つけてあげられる人になってね」という話をしました。一番小さい年少の子どもたちも入園して半年が

経ち、真剣に聴いていました。

この話をしながら、以前受け持ったクラスのある男児のことを思い出しました。その子はT君とってとても元気で活発な園児でしたが、少々乱暴なところもあり、他の子どもたちとのケンカが絶えない日が続いていました。「Tくんがたたいた〜」と泣きながら訴えに来る子どもがいけない日はないほど

あたたかい心 やさしい思い

でした。次第に子どもたちの間で、「Tくんは、わるい子」「Tくんはこわいから、いっしょにあそばない」と言い出す子どもが多数出てきて、ひとりぼっちのTくんを見る日が増えてきました。

そんな時、私が保育室で片づけをしていると、(一人ぼっちになってしまっていた)Tくんが「せんせい、てつだってあげる」と机を片付けたり、ごみを集めたりしだしたのです。「ありがとう。Tくんは力もちだね」と2人で掃除を

完了させました。その後も、トイレのスリッパをそろえたり、年少の子どもが泣いていたら、かがんで声をかけたりする姿が見られました。「これはチャンス!」と思い、ある日の降園前、クラスの子どもたちに、「先生、うれしいことがあったんだよ。Tくんがこんなことしてくれたんだ。先生、とってもうれしかったな〜」とTくんの様子を話しました。ちょっぴり照れくさそうにほおを紅潮させてTくんは聞いていました。

その日を境に「せんせい、きょうはTくんがこんなことしてくれたよ」「Tくんってやさしいところもあるね」とTくんの周りに友だちが戻りはじめたのです。どんなに「この子は優しい」と思っている、表に行動として出てこなければ、伝わらないのです。

ある研修会で、『『こころ』はだれにも見えない けれど『こころづかい』は見える おなじように胸の中の『思い』は見えない けれど『思いやり』

はだれにでも見える どちらも人に対する積極的な行為だから そしてあたたかい心が あたたかい行為になり やさしい思いが やさしい行為になる とき 《心》も《思い》も初めて美しく生きる それは人が人として生きることだ」というお話がありました。困っている人を見て、すぐに「助けてあげよう」と行動する人が果たしてこの世にどのくらいいるでしょう? どんなに「思っ」いても行動になかなか移せない人が多いのではないのでしょうか?

園児学に来られた方が、「こちらの園児さんは、きちんとごあいさつができるし、うちの子ども(一緒に来ていた)にも優しくしてくれました」と言ってくださることが度々あります。「園庭が広い」「先生方が優しい」など、いろいろと本園を選んでくださる理由がありますが、園児を誉めていただけると、「やった!!」と一番うれしく思います。「思いやり」のある、そして「心遣い」のできる人に育っていくように、全教職員で日々子どもたちを見守っていきたいと思っています。

こみち幼稚園 教頭 井上扶美

大阪成蹊大学 芸術学部

第3回大阪成蹊アート&デザイン・コンペティション

第3回大阪成蹊アート&デザイン・コンペティションの審査結果が決定しましたのでご報告します。応募テーマである「未来への発信」のもと、中学生作品204点(応募校数32校)、高校生作品823点(応募校数69校)と昨年度をさらに上回り応募総数が1000点を超えました。また、今年度からは新聞紙上でのコンペティション広告を通してご後援いただいている「毎日新聞社賞」が加わり、10月20日(日)の審査は非常に白熱し長時間に及びました。

【中学生の部】大阪成蹊芸術大賞には、伊丹市立北中学校の萩野彩乃さんのファンタジックなイラストレーション

「行き先は遙か未来へ」①、同準大賞には京都産業大学附属中学校の室田凧さんの造形的な絵画作品「見る未来」②、毎日新聞社賞には大阪市立東中学校の鉢嶺嘉子さんのイラストレーション「好奇心」③が選ばれました。また、中学生の部の各部門賞は、A部門(イラストレーション)に守口市立庭窪中学校の林れい華さん「追憶の未来」④、B部門(キャラクター・マンガ)に大阪狭山市立第三中学校の横北滯さん「未来への発信機(タイムカプセル)」⑤、C部門(美術作品)に四條畷市立四條畷西中学校の橋口りささん「息吹」⑥がそれぞれ選ばれました。さらに佳作25点、入選25点も決定しました。

【高校生の部】今年度の大阪成蹊芸術大賞は、高知県立岡豊高等学校の久保愛理さん「夢」⑦と、大阪成蹊女子高等学校の尾崎桃子さん「遊び心」⑧。お二人の共に精緻な平面作品がダブル受賞となりました。同準大賞には大阪府立港南高等学校の岩崎亨利さんの油彩画「ママが帰るまで」⑨、毎日新聞社賞には神戸市立六甲アイランド高等学校の松井一輝さん「反芻」⑩の立体作品がそれぞれ選ばれました。また各部門賞として、A部門(ビジュアルデザイン)に大阪府立旭高等学校の貝野貴美さんの元気なイラストレーション「煌めきガールズ」⑪、B部門(マンガ・アニメーション)には府立高槻北高等学校の富田航一さんの長大なストーリーマンガ「fine:art -美術-」⑫、C部門(写真)には大阪府立成城高等学校の西前里彩さんの幻想的な作品「MYファンタジーワールド」⑬、D部門(ファッション・インテリア・プロダクトデザイン)には兵庫県立鳴尾高等学校の朝日春衣さんの花壇用椅子の提案「花椅子(はないす)」⑭、E部門(美術・工芸)には富山第一高等学校の横田美優さんの眼鏡の奥にある清新な視覚を描いた油彩画「眼鏡の奥」⑮がそれぞれ選ばれました。さらに佳作29点、入賞40点が決定しました。

中学生の部および高校生の部それぞれに、応募作品の指導と出品にご尽力いただいた学校に対して贈られる「学校賞」として、中学校6校、高等学校9校が決定しました。選考いただいた審査員の先生方はじめ多くのお世話になった関係各位のみなさまには厚く御礼申し上げます。

授賞式は11月16日(土)に行われ、受賞作品は、南館1Fのギャラリー〈space B〉とプレゼンテーションルームなどで展示しました。多数のご来場ありがとうございました。

中学生の部



高校生の部



教員活動報告



紹介します。2月から5月までフィンランドのヘルシンキ・デザインセンターにおいて『Fiber Future』展が開催されました。また、来年1月から3月にかけては

世界的なファイバーアート作家として活躍する、環境デザイン学科教授の久保田繁雄教授の展覧会をご紹介します。2月から5月までフィンランドのヘルシンキ・デザインセンターにおいて『Fiber Future』展が開催されました。また、来年1月から3月にかけては

デンマークのゲンゲスト・アートセンターにおいて同展が開催されます。この展覧会は「日本のテキスタイルのパイオニア」という副題のもと、現在もっとも活躍する日本人アーティスト30人の作品を紹介する展覧会です。現代の美術・工芸の一分野であるファイバー(繊維)アート界を牽引する作品は、重力から解放されたかのように軽やかな印象を受ける明快な作品です。



学生生活活動報告

京都市美術館80周年記念「2013京展」において、本学部美術学科洋画コース4年生の千葉遥さんの油彩画『夏・兄の妻・居間にて』が、「京都市美術館館長奨励賞」を受賞しました。千葉さんは1月に開催された「2013京都美術ビエンナーレ」でも入選しており、非常に期待できる新人アーティストに成長しました。



千葉遥さんの作品『夏・兄の妻・居間にて』

びわこ成蹊スポーツ大学

若者よ、自ら育て！

～国際学会と国際交流～

2013年7月7～10日、台北(台湾)で開催された国際スポーツバイオメカニクス学会に参加しました。今回はゼミ生の山口恭平さん(修士2)が初の学会発表を海外で行うため、前年から非常

に忙しい準備期間を過ごしました。慣れない英語ながらも頑張ってディスカッションし、高評価を得ていました。

翌8月、今度はブラジルに行ってきました。まず、4～9日の国際バイオメカニクス学会に参加しました。学会は非常に大規模で、世界中の学者が最新の研究を発表し、白熱した議論を展開していました。



㊦国際バイオメカニクス学会 ㊦フェヴァーリ大学を訪問(右が高橋准教授)



そして、12～13日に本学国際交流の一環としてフェヴァーリ大学(Feevale University)を訪問しました。学会の開催されたナタールはブラジル北部、大学のあるポルトアレグレには南部。同じブラジルなのに飛行機で(トランジット込みで)7時間半。ブラジルは広大です。今回の国際交流は、ポルトアレグレを含むリオ・グランド・スル州が滋賀県と姉妹県州協定を締結していることがきっかけで行われることになりました。

国際学会や国際交流に本学学生がどんどん挑戦していくのは、「グローバル人材の育成」という観点から非常に重要と思われます。場を提供し、本人の心に火をともし、意欲と努力を駆り立て、学生が「自ら育つ」ように「導く」役割を、我々教員は果たさなければなりません。

高橋佳三(国際交流専門委員会議長)



びわ湖パノラマウオークでボランティア活動

本学の協賛・後援による市民参加型の全国イベント「第1回おと温泉・びわ湖パノラマウオーク」が9月22、23の両日、開催されました。好天にも恵まれ、北は北海道から南は熊本、上は86歳から下は3歳まで、全国から老若男女約2,600人が集まりました。参加者には、42.195キロから5キロまでの各コースでウォーキングを楽しんでもらうとともに、大津市の地域資源である歴史、文化、自然、そして琵琶湖を大いに堪能していただきました。

イベントには、本学の若吉浩二教授(競技スポーツ学科)が実行委員会代表として参画。本学の学生延べ100人がボランティアとして2日間の大会運営に協力しました。若吉教授は「学生たちがさわやかな笑顔で他県からの参加者に声を掛ける姿にエネルギーをもらいました。」と話しました。実践的フィールドを通じて学びを深める学生たちの今後の成長が大いに楽しみです。

世界大会出場後の学長報告。左から、清水学部長、森内さん、飯田学部長、磯元さん、吉田准教授(アルティメット部部长)



の高い仲間たちとプレーできた喜びがあった」と語りました。また同選手権ミックス部門には磯元隆史さん(競技スポーツ学科4年)がマネージャーとして参加し、銅メダルを獲得しました。

世界に飛び出し、活躍

競技スポーツ学科4年の森翼さんが、7月にロシアのカザンで開催されたユニバーシアードに水球女子日本代表として出場しました。大会では、5～8位決定予備戦でフランスに10-4で勝ってユニバーシアード初勝利を挙げるという新たな歴史を刻み、6位となりました。森さんはサウスポーという特徴を生かし、6試合で6得点と攻撃陣の一翼を担いました。「今回のユニバーシアードで歴史をつくったことは、負け試合が多かった中でもうれしい」と笑顔で話してくれました。

競技スポーツ学科4年の森内朝子さんは、7月にカナダ・トロントで開催されたU-23世界アルティメッ

ユニバーシアード出発前に行われた壮行会での森さん



ト選手権女子部門の日本代表として銀メダルを獲得しました。アルティメットはディスクをパスしながら相手陣のエンドゾーンに運び、得点を争うゲームで、森内さんは本学でこの競技に出会いました。世界の舞台を踏み、「最高に楽しかった。レベル